



H290616

第3回準備会資料

(仮称)大阪フィランソロピー会議の検討
～アジアの民都(公益首都)をめざして～

なぜ「民都・大阪」をめざすのか

わが国は、人口減少・超高齢社会に突入し、社会経済構造の大きな転換点を迎えている。生活・暮らし、健康、安全安心など、社会的課題の多様化に対応していくため、従来の行政サービスに加えて、民の力を活かした厚みのあるサービスの構築により、誰もが豊かでいきいきと暮らせる社会の実現が求められている。

こうした中で、国内では、NPOや社会的企業など社会的課題解決に取り組む新たな主体の増加、CSR（企業の社会的責任）の取組みが着実に進んでいるが、さらに世界では、寄附や投資等を通じた公益活動が新たな時代の潮流となり、「フィランソロピー（ ）」への関心が高まりつつある。

大阪は、町人が自分たちで多くの橋を整備していったように、都市発展の歴史において、民の力が大きな役割を果たしてきた。官の発想を超える活力を社会の中心に据え、「民が主導する社会」を大阪から創りあげ、国内外に発信していくことにより、【民都・大阪】の復活を果たしていく。

「フィランソロピー」について

語源は、ギリシャ語の「愛する」（Phil）+「人間」（Anthropos）で「慈善活動」や「博愛」を意味する語。社会貢献活動の総称。ここでは、社会的課題解決に向けて行う寄附や社会的投資等を通じた公益活動をいう。

フィランソロピーを通じた「民都・大阪」の実現

我が国では、福祉や医療、教育などの様々な分野において、それぞれの主体が社会的課題の解決や公益の増進に取り組んでおり、また近年では、いわゆる社会的企業のような新たな主体も増えつつある。

このような**多様な主体が法人格や営利・非営利の枠を超えて、これまでになかった連携や協働（新たなアライアンスの構築）を生み出し、資金・人材の確保や情報発信などについて、従来とは異なる新たな取組みを進めることにより、大阪から民が主体となった社会的課題の解決を先導する。**

これらを通じて、自らの知識・能力・経験などを活かして公益の増進や社会的課題の解決に取り組むたいと考える**人材を支援するとともに、住民一人ひとりが活躍できる社会づくりを後押しする。**また、こうした動きにより**新たな産業や市場、雇用を生み出し、大阪の成長にもつなげていく。**

(仮称)大阪フィランソロピー会議の目的・意義

(仮称)大阪フィランソロピー会議

フィランソロピーへの関心が世界的に高まりつつある中、多様な担い手が、法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、それぞれが公益活動を担う主体だということを再認識（共通のアイデンティティを形成）し、大阪の民の連携・協力によりその存在感を国内外に示す「核となる場」として、(仮称)大阪フィランソロピー会議をつくる。

【場の創出を通じた好循環】

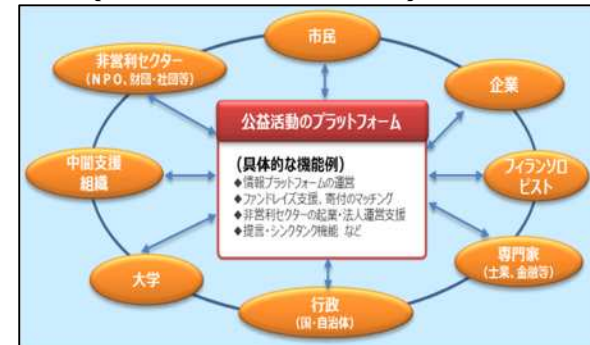
この会議を核にして、大阪が抱える様々な社会的課題の解決に向けた新たな知恵やアイデアを生み出す。こうした大阪の動きを国内外に向けて発信することで、「民都・大阪」として、アジアを中心に国際的な存在感を高める。

民都・大阪において、世界的な潮流である税の分配によらない民の自発的な発意による寄附や投資を第2の動脈として資金や人材を集める。

この資金や人材を、民が主体となって大阪における非営利セクターや社会的企業などの活動につなぎ、活かすことで、活動の場を広げ、民間活動の活性化につなげる。



【核となる場（公益活動のプラットフォーム）の検討イメージ】



検討すべきテーマ イメージ

戦略の柱

セクター・法人格の
縦割りを超える
活動を通じて

ワンストップ機能を
構築する

新たな資金の
流れをつくる

非営利セクター等の
情報を発信する

ワンストップ機能を構築する

- 具体的なワンストップ機能の検討
- ・支援機関とのネットワーク構築
- ・寄附等による資金調達と、公益活動の主体とのマッチング機能
- ・起業・運営支援機能
- 情報発信、資源（人材・資金）の確保・マッチング、財務処理、役員のリスクヘッジ、活動フィールドとのマッチング、非営利とベンチャー（営利企業）とのマッチングなど

新たな資金の流れをつくる

- 新たな資金調達の仕組みの研究
- クラウドファンディング、SIB、ベンチャーフィランソロピーの活用など
- 遺贈や休眠預金を活用した第2の動脈構築
- 資金の受け皿やマッチング機能の検討など
- 新たな資金により解決できる具体的な社会的課題の検討
- 税制・会計基準等の制度見直し、規制緩和に関する検討

非営利セクター等の情報を発信する

- 非営利・社会貢献活動情報の発信力強化
- ・どのような情報を発信するか（コンテンツの検討）
- 各団体の活動内容・イベント、決算情報、求人情報など
- ・どのような手法で発信していくか（ツールの検討）
- ネットの活用（ポータルサイト作成・HP・SNSなど）、イベント・キャンペーンでの発信など
- 海外向けの発信
- 大阪での国際セミナー、学会誘致、アジアのフィランソロピー関係団体の本部誘致など
- フィランソロピー都市宣言

民主体による新たな組織

- セクター・法人格の縦割りを超えた運営組織の設立の検討
- ・(仮称)大阪フィランソロピー会議の運営など、具体的な取組みの推進主体

例えば、

【資金】

資金を集め、分配するプラットフォーム機能を果たす組織をどのように構築するか？

この組織を休眠預金制度導入における体制（資金分配団体）としてどう活用するか？

寄附につながる大阪のプロジェクトの魅力的な見せ方とは？

一般損金非課税枠・遺贈など、寄附の増加のためにどんなプロモーションが効果的(ターゲット・手法)？

公益活動活性化に向けた税制・制度の見直しに向けて、「みなし譲渡課税の特例適用」など、いま大阪で何をすべき？何ができる？

【人材】

非営利セクターで働きたいという人材を育てるにはどうすればいい？

法人・団体が持続的・継続的に存続し、活動を行うために、どうやって人材を確保するか？

専門人材の活用など、どのような起業支援や運営支援が効果的か？

【情報】

法人・団体にとってどのような情報が必要か？その情報をどうやって集約・共有するか？

単なる情報発信ではない、情報と何かを組み合わせた効果的な発信とは？

公益活動の成果を評価するための基準・指標として、どのようなものがあるか？

(仮称)大阪フィランソロピー会議構成イメージ

(仮称)大阪フィランソロピー会議は、非営利セクター等の関係者が集う「**全体会議**」と、全体会議でとりあげるテーマの整理や具体的な取組みについての検討を行う「**コア会議(仮称)**」で構成する。必要に応じて分科会なども検討。
会議は多様な非営利セクター、大学、企業、行政などが対等の立場で議論する場とする(参加者は無償で参画)。

(仮称)大阪フィランソロピー会議イメージ

全体会議

本会議の趣旨に賛同した団体等で構成するインクルーシブな集まり
コア会議の成果を広く発信
講演形式やシンポジウム形式など様々な手法を想定

コア会議

非営利の各法人類型などでリーディング的な団体の責任者、学識、行政等で構成

フィランソロピーの促進、非営利セクターの活性化にむけた問題提起や課題の検討、取組み内容などについて議論を行う

個別課題については、必要に応じて分科会を置くことも検討

分科会はコア会議メンバーが、その他の有識者等の参画を求めながら、議論をリード

<コア会議メンバー イメージ>

有識者	公益法人	社会的企業
大学関係	学校法人	企業CSR、CSV
中間支援組織	医療法人	協同組合
行政	NPO法人	任意団体
経済界	社会福祉法人	その他

<分科会 イメージ>



事務局

会議の構成については、会議における具体的な検討課題等を踏まえて整理していく

「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」

「民でできることは民が行う」を基本に、一人ひとりが様々な社会的課題に向き合い、自ら解決に向けて行動することで、自発的・持続的に様々な課題解決を図る都市

国内外から、第2の動脈（税の分配によらない民の自発的な発意による寄附や投資）や多様な担い手・団体が「集まり・つなぎ・活かす」ことができる、国際的にも先進的な拠点都市

